

きたかみ未来創造会議

創造NEWS 第20号

2010.6.18
第20回会議
未来創造会議
ファイナルの巻

2年間、20回にわたる「きたかみ未来創造会議」が市長へ提言書を提出し、無事終了しました。長期間にわたる会議にご参加を頂き、本当にありがとうございました。皆さまのご尽力に深く感謝申し上げます。平成23年度からは、この計画の実行・評価・改善がはじまります。きたかみの未来創造に向け、今度は「実行」です。連携と協働をもとに、市民の皆さんと一体となって新たなまちづくりに取り組んでいきたいと思ひます。



■第20回「きたかみ未来創造会議」の概要

きたかみ未来創造会議は、平成22年6月18日(金)にファイナルを迎えました。

当日は、前回に意見交換をした内容を最終確認し、全員で、目指すべき将来の姿とそれを達成するための役割分担の確認を行いました。

それぞれの分野でこれまで検討してきたことを発表し、それを全員で共有することによって、これまでの議論を振り返ることができたと思ひます。

そして、今回の未来創造会議に全出席を果たした、高橋由紀子さんが伊藤彬北上市長に提言書を提出し、きたかみ未来創造会議は終了しました。

皆さんが検討した内容は、今後、市役所内や審議会等でさらなる検討が重ねられ、フォーラムやパブリックコメントで広く市民の皆さんからもご意見を頂いたのち、平成23年4月からスタートとなります。

今後は、「実行」です。市民・企業・行政の3者が手を携え合い、目指す将来の姿に近づけるように、これからもさらなる参加をよろしくお願いしします。



最終案の確認



最終案の発表・共有

＜市長あいさつ＞

この度は基本計画に対する提言書をいただきました。一番最初には基本構想に関する提言書をいただき、今度は基本計画に対する提言書をいただきました。メンバーの皆さん、60名と伺っていますが、ほぼ2年間にわたってこの作業に取り組んでいただきました。大変ご苦労様でした。

総合計画をつくるのは、私の任務としては2回目です。実は前の時にもさまざまな要望を出させていただきました。というのは、市長になる前に総合計画の審議委員を務めさせていただきましたが、当時は役所の中で考えて、コンサルタントにお願いをしていただいたりまとめてもらい、役所でまた修正をして、市議会、20～30名だったでしょうか、膨大な資料を当日渡されて意見をうかがわれました。何もしゃべれませんでした。それを2回くらい開催した記憶があります。それで、民意を反映した総合計画がまとまると市から発表されたとき、実は大変がっかりしました。私たちの発言はほとんど入れませんでした、というよりも、発言できませんでした。いただいた資料をその場で見て発言できる人は相当な能力だと思えますし、また、一週間前にいただいても、そんなに読めるものではないという実感がありました。それは、その時になって考えてみても、なかなか文章を読み切れなかった、入り込めなかったということがありました。そのような思いから、総合計画というのは誰かがつくって行政がやるものだ、というあまりいい印象ではない思いをずっと持っていました。



1回目、10年前に作っていただいたときには、それを何とか市民参加型に変えられないだろうかという思いを職員に伝えまして、その形をとっていただきました。その時に参加された方もいら

っしゃると思いますが、ワークショップをやりながら、相当いろんな作業をして今の総合計画ができました。そして、その下に地域計画もぶら下がりました。相当、市民の声が反映された形の総合計画になってきたと思えました。そして、今度になりました。今年いっぱい今の総合計画が終わりますから、今年度中にきっちりして来年からのスタートになります。約2年間にわたる作業をして今回の総合計画がまとまることになります。私が以前に思っていた思いが伝わって今回の未来創造会議がつくれ、こういう形にまとめたいただいたことに感謝しております。

皆さんから伺ってみますと、皆でいろんな意見を出し合っていこうということが一つ、市民の思いがいっぱい伝わってくるということが一つ、そして具体的に誰がやるんだという役割分担を考えて、そして、それを実現するために指標を立ててやっているということです。指標はもしかすると、10年の間に何回も変わるかもしれません。それは当然だろうと思えます。世の中の変化は相当速いです。そこで、立てた指標にこだわるのではなく、充分に見ながら、修正すべきところは修正して皆で考えていこうということだろと思えます。その検証は誰がやるんだということになれば、それぞれが検証していかなければならないし、それから、本日お集まりの、未来創造会議で考えてきてくださった皆さんに検証していただくことも大変大事だと思っています。

10年前につくってワークショップをやりました。その時、計画に参加された皆さんが果たして検証の機会に参加する事ができたかという不十分だったかもしれません。私たちがつくった計画を1年に1回でもいいから、皆で振り返ってどのような形で推移しているか検証していく責任がある、そして修正すべきところは修正していかなければならない、そのような機会を設けてほしいというご要望をいただいていた。

作業が今まとまって、これから総合計画の中に思いを伝えていくわけですが、作業した後も検証活動を続けていきたいと思っていますので、大変ご苦労様でございますが、皆さんの検証活動へのご参加もお願いしたいと思っています。自分たち、皆が考えていたことが順調に行っているかどうか、それをチェックしながら、行っていないとすればどこに課題があるか、掘り起こしながら具体

化につなげていける様な作業ができればいいのかなと思っています。

実は今、庁内では経営改革委員会を立ち上げ、様々な作業をしております。経営改革という言葉が気に入らないとこの間、議会で怒られました。経営改革というお金の話ばかり考えているようだという話もありました。これは物の見方です。名前が気に入らないなら名前を変えるのはどうでもないことですが、要は持続性のあることをどのようにやっていこうか、今皆さんに考えていただいた総合計画をきっちり作り上げて10年間頑張っていくわけですが、その総合計画が絵に描いたモチにならないように、財政をきちっと見ることも、システムをきちっと整えていくことも、協働の一つの役割をなす行政の役割としては大変大事なことなんだと思っています。持続性のある行政をやるためにどうするかというための経営改革のプランニングを盛んにやっているわけです。単に儲けていくことだけのための民間、会社経営とは違った意味でのセンスを、ここでシステムと共に見直していこうというのが私たちが取り組んでいる経営改革の内容であります。

先週、全国の市長会議があつていろんな議論をしてまいりました。その時に東大の名誉教授である先生が環境についての講義をなさいましたが、環境についての講義は様々な分野に及んでおりました。最終的には幸せ論という所によりましたが、いろんな改革をする上で、その先に何があつて、どういう幸せになればいいかということのなかで、確かブータンの言葉だったろうと思いますが、GNPでなくてGNHという言葉を使っておりました。GNPはGross National Productということになりますが、GNHはGross National Happinessです。要するに、国民がどの程度幸せになれるかという指標を描いて、そこに政治が向かう、実際の経済力がそこに向かっていくことが大事なことなんだと思います。

私たち行政マンとしては、仕事も理念として住民福祉の向上ということを常に頭の中に描いてやるんだということで、様々な活動をそれをベースにしてやっているわけですが、まさに総合計画はそういう意味での指標を示すものになるだろうと思っています。その内容を市民の皆さん

と行政が今まで以上に密着して考えて作り上げたという事は大変な成果とっております。

<コーディネーター高橋敏彦さんの振り返り>

今まで20回、未来創造会議で皆さんと一緒にワーキングをしてきたわけですが、邑計画さんには皆さんの話を聞きながら、提言書を整理していただきました。これは5年後10年後あるいは3年ごとになるのかもしれませんが、PDCAを皆と一緒に市民参加で政策の評価をするときに必ず使うものです。出来て終わりというのでは全くございません。それを3年後5年後10年後に使いやすいように、見やすいようにというような思いでつくっていただいたと認識しております。

総合計画基本計画への提言書についてですが、4、5ページに検討経過が載っていますが、前半部分については基本構想を皆で考えるということで、6分野ごとの10年後のありたい姿を考えていただきました。そして、後半、昨年度から今年度にかけて、未知の分野になるかと思いますが、各分野で5年後に北上市が具体的にどうなっていればいいのか、中期成果を考えながら、それを示す指標は何かを皆で考えました。指標を決め、どんな値になっていけばいいか目標を皆で考えたというのが10年前にはなかったグループワークだったのではないかと思います。

なぜ、指標が必要かということですが、一番最初から政策企画課さんの方でもずっと申し上げてきたように、市民参加で政策のPDCAサイクルを回していきましょうということです。ですから、3年後5年後10年後、この計画が妥当だったのかどうか、市民参加がどうだったか、企業がかかわる事ができたかどうか、行政はどうかというような評価ができるようにあらかじめ事前に指標を考え、目標値を設定していきましょうというのが今回の重要なポイントだったと思います。

難しい作業を一生懸命取り組んでいただきまして本当にありがとうございます。皆さまで、この計画自体にどのように市民参加していけばいいか、それによって何がどう変わっていけばいいか見えるものになったと思いますし、3年後5年後10年後の評価に充分使えるものになったのではないかと感じています。皆さんそれぞれよくお読みいただいて、3、5、10年後にこの提言書

を生かし、また評価活動に参加していただければと思います。



<ふりかえりカードから>

○他分野と少々流れの違う素材での検討で、とまどい自問しながらの2年間でした。共に市民としての共通の立場で、各々の専門性を発揮してとてもよい成果物をつくることができたのではないかと思います。特に、当グループの指標は測定の難しいものも多くありましたが、ひとつの方向が見えたことでますます協働の力が活性化して、進んでいくのではないかと期待しています。これからが本番。どんな北上を10年後つuckingのか楽しみです。

○全20回の会議のうち出席できたのは、4分の1程度。公務であったり、私用であったりで欠席することが多く申し訳なく思っています。私の職場である市生活環境課では現在、次期環境基本計画を策定中であり、市の総合計画が上位計画となっていることから、未来創造会議でこれまで議論してきたことや積み重ねてきたことを、この次期環境基本計画に活かしていきたいと思っています。スタッフの皆様大変お疲れさまでした。

○20回をふりかえって思うこと。自分自身、楽しく参加することができ、あらためて教育、文化(社会教育含む)、芸術の大切さを考えました。ぜひとも提言されたことが達成できることを祈ります。

○昨年、人事異動になり、この会議に参加することになった。正直参加するのが大変なこともあ

りましたが、議論が形になる過程を体験することができ、勉強になりました。この提言が、どう新計画に反映し、より市民の方を見たモノになることを見守りたいと思います。残念だったのは参加メンバーが少なかったことです。

○途中で「推進体制」から「保健福祉」へとグループ替えがあり、戸惑いがありました。また年度末、年度初めの業務繁多のため、3、4回と欠席してしまい、グループの皆さんにご迷惑をかけました。苦しい時期もありましたが、最後まで出席できました。

○「前半は未来に向けて自由に」という主旨に近い気分で楽しく参加できました。が、後半はとても難しいと思いました。特に成果指標では、項目を選ぶだけなら楽しいイメージで意見を出せるのですが、数字の意味が(上昇でいいのか悪いのか)わからずに5年後の数値目標を考えるのは無責任な気がしてつらかったです。いずれにしても様々な人と話し合いを継続するという経験ができてよかったと思います。

○もっとじっくり考える時間がほしかったです。グループインタビューの資料は参考になりました。

○基本的な事項より勉強させていただいた。提言書に反映されたとすれば誠に幸甚と思います。

○「提言書」までようやくたどりつきました。市民の役割として参加すること、北上市の将来を考えることは自分にとっては義務でもありました。北上市の市政に参加できた喜びを感じています。機会をいただき、ありがとうございました。

○ヒューマン・ネットワーク(人間関係)はとても大切なものです。季節は二巡しました。その間、いろいろな人と話し合い、知り合いになることができました。この会議は今日で終了しますが、メンバーにはまたどこかで一緒になれると思っています。これからも宜しくお願い致します。

○途中からの参加で、目的も進め方もわからず、必死で理解に努めましたが、連続参加しないと全くついて行けなくなりました。職場の異動もあり、他の班の興味の方が強くなり、外から見る行政、市民の立場としてのまちづくりなど、こういう手法で構築されるという実感が持て、大変有意義でした。

○推進体制に参加することになり、とても難しく苦勞しましたが、すべての分野に影響を与える大切な施策をかかげることができて満足しています。「より良い街に」という想いを保持し続けることによって、10年後の北上が更に良くなってほしいです。

○手さぐりで、思い付きをただただ発想した2年間だったような気がする。ファシリテーターさんの力によるところが大きかったと思います。感謝！感謝！

○20回、足かけ3年。長い様で短く、いや長かったが第一印象。我々の3班は12名程であるが、常時メンバーは今日出席した5名か。街なかの、中心メンバーの出席が少なかったのは残念であり、まちづくりの意識を問う。役所の若い連中と市民の皆さんと協働で長い間話し合えた事、それを構築していった事、すばらしい成果と思う。いろんな提言や企画、計画で今後の参考になればよいと思う。

○とりまとめの目的が4ヶ示されているが、これがどう反映されるのか？提言どまりということかよくわからない。この回数と期間は半端な長さであった気がする。東海のどこかでは3ヶタの会議をやったというが、それはどういうものだったんだろう。行政の既存の方針に触れる部分は、いつのまにか外されているものもあった。初めてというものはこんなものか。ワークショップの進め方は様々な意味で参考となりました。

○なかなかゴールが見えなかったもので、よくここまで出来上がったな・・・というのが正直な気持ちです。皆さん、お疲れさまでした！

○今日(第20回)この場にいる事は感無量です。何度か挫折しそうになりましたが、班の仲間、スタッフのおかげです。皆さんと会う事が出来た事は私の財産です。今度は今回教わった事を地域活動に生かしていきたいと思います。

○初めは保健福祉で次は基盤整備で話し合いに参加しましたが、どの班でも時間不足でじっくり話し合う事が出来なかったと思う。もっと時間があれば良かったと思います。考え方が浅かったので責任を感じます。今まで提言書を作り上げて来た方々、ご苦勞様でした。

○全然出席できなくてすみません。まちづくりも人づくりも「情熱の感染」、関わる人たちがどれだけの思いで、回りに伝えて共感してもらうかだと思ふ。どれだけ沢山とか大きい事ではなく、どれだけの思いか、というのが感染していくものと考えています。この熱気が市民に伝わってほしい。

○2年間にわたり協議してきた結果、よいものができるかと思う。行政にとっては、これが施策推進へのパイプとなるものだが、市民もこれを見て、自分たちのまちは自分たちで作るという意識がでてくればよいと思う。おつかれさまでした。

○全員が街づくりに熱い思いをもち、活発に意見を出し合う素晴らしい会議でした。この成果を生かせるよう、今後頑張りたいと思います。もう少し議論を深める時間がほしかったです。

○ようやく一つの形ができあがりました。初めは「10年後の北上なんてイメージできないよなあ…」と思っていましたが、回を重ねていくうちに、皆と話しているうちに、皆の考えを聞いているうちに、自分でしゃべっているうちに、ポヤ〜っと見えはじめて、そのポヤ〜がだんだんくっきりとなってきて、本日にいたる！10年後、自分は46のダンディーなおやし。子どもたちは小・中学生。明るく楽しくHAPPYな北上でありますよう！